**ワーカーズコープちば（企業組合労協船橋事業団）2020年度活動報告**

はじめに

昨年春に突如として広がった新型コロナウイルス感染症は、千葉県だけでなく日本、全世界の人の生活や仕事に大きな影響を与え、世界恐慌以来の景気後退となる可能性が指摘されています。経済活動の自粛が長期化し、休業や解雇を余儀なくされる企業が急増する中で、厚生労働省の発表では、新型コロナウイルス感染拡大に関連する解雇や雇い止めが、見込みも含めて2月5日時点で8万6,500人に及び、なかでもアルバイトや派遣社員などの非正規雇用の人は4万1,396人と約半数を占めています。雇用を取り巻く環境の厳しさが増し、現役世代を含めて生活困窮が広がっています。

幸いにも私たちワーカーズコープちばの職場で働く組合員への感染は確認されていませんが、家族やその周りでも当たり前に感染が広がっています。私たちの職場は、この1年、コロナにも関わらずほとんど止まることなく日々の事業を継続しました。その多くが、人々や社会にとって無くすことのできない基本的な仕事（エッセンシャルワーク）です。私たちは日々仲間とともに働ける喜びを感じるとともに、自らが感染することや周りの人に広げてしまうことに不安を感じ、ストレスを抱えながら働くことになり、長期化するにつれ誰もがしんどさを感じながら過ごすことになりました。特に、病院や施設清掃、送迎等の現場では、感染のリスクと向き合いながら、患者さんや利用者さんのために感染予防も含めた業務を行ってきました。また、在宅勤務等の拡大により、生協の利用が拡大する中で、朝積みや片付けの現場も生協の要請に応え、組合員が力を合わせて乗り切ってきました。

そんな中で、2020年12月4日に国会で「労働者協同組合法」が全党・全会派の賛成により成立しました。失業者や中高年齢者の働く場づくりから始まり、「労働者が主人公になる」ことを目指して地域に必要な仕事おこしに取り組んできたワーカーズコープの運動が、40年の年月を経てようやく社会に認められた瞬間でした。私たちワーカーズコープちばも2008年に「協同労働の協同組合ネットワークちば」を結成し、他の協同労働団体と共に地方議会での意見書採択運動や議員への働きかけ、市民集会などを行って法制化運動に取り組んできました。

法律は2年以内に施行されますが、今後多くの個人・団体がこの法律によってワーカーズコープを立ち上げていくことになるでしょう。私たちは「船橋地域事業団」から始まり、34年に渡って培ってきた歴史を振り返り、県内での労働者協同組合の先駆者として、より強く豊かな実践を作っていくことが求められます。

このような状況下で、私たちの最も重要な会議であり、1年間の事業と活動を振り返り、新しい事業方針を確認する定期総会を行います。労働者協同組合法人への移行という大きな節目を迎え、今年はなるべく多くの人が集まり討議できるよう対面を中心とした総会にしていきたいと考えています。

この1年を振り返って

＜経営改革＞

2016年度から3期続いた赤字は、各職場の組合員が一丸となって取り組んだ経営改善により、ようやく黒字化が実現し、2019年度はわずかながら剰余（利益）を残すことが出来ました。

2020年度は、過去2年の事業の縮小や終了といった仕事や組合員の減少の状況から、新たな仕事や既存の仕事の増加があり、事業高が回復するとともに、引き続き各職場での改善が進み、年間で約2,000万円の剰余が出る見込みとなりました。特に、各職場で人件費の管理を行い、残業等時間外の抑制も進んで、人件費率を大きく下げることが出来ました。前年比で31職場中15職場で原価率が改善しています。また、売り上げが増加しているのは22職場（新規事業含む）、原価率改善と売り上げ増の両方を実現しているのが、13職場となっています。

一方で、過去3年の赤字の際に行った借入金の返済（840万円/年）は続いており、運転資金は徐々に回復しているものの、依然厳しい状況には変わりはなく、本部関係者への給与を現金支給して乗り切る月もありました。日本労働者協同組合（ワーカーズコープ）連合会の会費も減免を申請し、最低会費とさせていただいています。

今後、さらに経営改革を進め、運転資金を安定的に確保できるよう出資・増資計画、財務計画を立てていきたいと思います。

＜新規事業の拡大＞

2020年度は、幕張地域の医療機関・施設の送迎業務（まくはりの郷、花園診療所往診、北部診療所デイ）が新規拡大した他、らいふあっぷ習志野の相談支援員の増員（1名）、就労準備支援事業が新たに始まりました。また、千葉エリアでは千葉市の相談支援事業（稲毛・若葉）に2020年6月から「アウトリーチ支援員」が増員になりました。また、二和エリアでも2020年9月より南浜診療所の送迎業務が開始、またヘルパーステーションしいの木では、2021年1月より障害者を対象としたヘルパー業務を開始し、事業が拡大しています。

新型コロナ感染症の拡大を受けて、2020年11月から、休眠預金を活用した「新型コロナ対応緊急支援助成」に応募し、助成を受けて習志野市実籾に「ハーネス実籾」を船橋市新高根に「たんぽぽ新高根」を1年間の限定で開設しました。らいふあっぷ習志野、中核地域生活支援センターまるっと、千葉市生活自立・仕事相談センター稲毛・若葉、船橋市保健と福祉の総合相談窓口さーくる等と連携した、地域ニーズに応えた仕事おこしとなっています。

＜2012年度～2020年度事業推移＞



＜重点方針　１＞赤字体質を無くし、みんなが経営に参加する仕組みづくり

* 定期的な会議（エリア会議・団会議）は定着してきた。四季彩では、団会議が定着し、原価を意識することができるようになったことと、責任者と組合員の信頼関係が深まったことなどにより、経営改善が進んだ。
* 経営実績については各職場で把握できているが、月次報告書による予算と実績の比較・評価等はなかなか進んでいない
* 全体の原価率は大きく改善がみられてきている。特に人件費率、材料費率が大きく改善した。
* ワーカーズコープの経営についての学習会はあまりできなかった。
* コロナの影響を受けて会議のオンライン化などの工夫が進んだ。

＜重点方針　２＞多様な人が働ける職場づくり

* コープみらい習志野センターの職場では、就労困難な方を受け入れ、定着に向け皆で取り組んだ。残念ながら退団になってしまったが、継続的に取り組んでいきたい。
* 人材募集について、求人誌（紙）等での募集だけでなく、地域での口コミやポスティングでの募集や働き方の見直しなども皆で話し合ってできるようになってきた。また、職業訓練講座の受講生への働きかけも。
* 「人が辞めない職場、働き続けられる職場」をつくるために高齢の組合員も働ける職場づくりを進めてきたが、一方で在職中に亡くなる方も出てしまった。65歳以上の高齢の組合員の体調管理に課題が残った。
* 幕張地域の運転業務の拡大に合わせて「運転アシスタント」業務を創設。若手を中心に急な欠員に対応する体制をつくり、みなが安心して働ける工夫を行った。
* 千葉市・習志野市の相談窓口等との連携が進み、相談者から組合員として共に働く例も生まれてきたが、一方でハンディを持つ組合員を受け入れていく難しさも。

＜重点方針　３＞エリアの中に新しい地域福祉事業をおこす

* エリアの中に、新しい「地域福祉事業」をおこす。

　　既存の事業を発展させるとともに、地域の人々の生活（食や住まいなど）に関わる新しい仕事をおこす。

⇒　現在の事業から一歩踏み出して新しい事業・活動に挑戦する事例（しいの木、制服バンクなど）が生まれた。

　　しいの木は、昨年度の居宅介護支援事業に加えて、今年度は障害者のヘルパー事業を開始した。

　　制服バンクは、本部・総務が運営してきたが、利用者が増え今後の方向を模索。

* 既存の職場が連携してできる仕事・活動をはじめる。（継続）

 地域の職場同士が連携することで、新しい仕事おこしに取り組む。

 ⇒　くりんあっぷ（引き払い事業）は、高根台つどいの家、相談事業等からの依頼が増えた

 ⇒　休眠預金の助成を利用したシェルター事業は、ワーカーズコープちばの事業やエリアの垣根を越えて取り組める可能性。

* 職業訓練講座の経験を活かし、組織全体で仕事おこし・人材づくりの講座に取り組む。千葉県民医連（千葉県民主医療機関連合会）や病院の友の会（患者会）等と連携し、不足しているニーズを把握し、仕事おこしにつなげます。

⇒　職業訓練講座の修了生から、今年度3名が入団した。ワーカーズコープの現場の組合員がよびかけることで、監修する流れが出来てきた。

⇒　地域の介護事業者のニーズに合わせて「実務者研修」の実施を企画した。

* 地域のくらしと仕事に結んだ社会連帯活動として、各エリアで以下の活動に取り組む。（継続）
	+ フードバンク活動
	+ コミュニティサロン活動（きずな）
	+ 子ども食堂・地域食堂
	+ 制服バンク
	+ 農業（農福連携事業）
	+ その他

　　　　　⇒　個別に報告してもらいます。